



ちょっといい話

シリーズ①

「ポイ捨てしますか？ 心も捨てますか？」

「道徳のまち笠松推進会議」では、まちづくりの一環として、町内の各種団体と連携して「ゴミ一掃活動」を年3回ほど実施しています。

- ・トンボなどの生き物の成育を願うトンボ池周辺の清掃(6月)
- ・「おもてなしの心」での鮎鮎街道のゴミ拾い(9月)
- ・国道22号の坂路付近を中心とした円城寺周辺のゴミ拾い(10月)

これらの活動によって笠松町は、より一層きれいなまちになっています。しかし、笠松町の道路や公園などがきれいに保たれているのは、これらの活動の成果だけではないと思われます。そこには、町民の自主的な清掃活動が、きれいなまちを支えていると考えられます。

- ・営業時間前に店の周辺を掃除する企業の方
- ・部活動の時間を使い、清掃活動を行う高校生
- ・町内一斉清掃に参加する中学生

このような意識の高まりが、きれいなまちをつくっています。とてもうれしいことですね。

部活動の時間を使い、清掃活動を行う岐阜工業高校生徒



町内一斉清掃に参加する笠松中学校生徒

これから、毎月「ちょっといい話」をシリーズにして皆さんにお届けします。身近で「ちょっといい話」がありましたら、中央公民館へ電話、FAX、郵送、メールなどでご連絡ください。お待ちしております。
☎388-3926 FAX388-3233
メールアドレス:kyouikubunka@town.kasamatsu.lg.jp

かさまつの民話『昔むかし』

日枝のおゆき④

ゆきの緊張したいげんのある態度に村人はうなずくばかりであった。

やがてお宮の境内には、大釜がすえられ湯のたぎる音がしてきた。

「欲をすて、ねたみ、そねみをうちはらって祈るのだ。」

源齊の地の底からわきあがってくるような低い声がしてきた。

「湯のにえたぎる音にあわせて祈るのだ。湯のささやきを頭いっぱいにつめこむのだ。」

ぐらぐら、ぐらぐら、ぐらぐら。

地の底からの声は、村人を瞑想の世界へさそっていった。村人はまるで気がくるったように地にひれふし、額を地面にこすらんばかりに念仏をとえ続けた。

「熱の神よ。この村人の願いをききとどけたまえ。」

村人のおごそかな祈りの声をぬって源齊の地の底のつぶやきがきこえてきた。

どのくらい時間がたったであろうか。

「あ、雪だ。雪だよ。」

子どもの声に村人は、はっと我にかえった。雪は、舞い落ちる桜の花のように、ゆっくり、ゆっくりと鎮守の森をうめつくしていった。

「吾介さよ。豊作の雪じゃ。」

「茂平さや。おゆ

きさまを信じてよかった。」

あちらからもこちらからもよるこびの声がしてきた。

(つづく)

